

公益財団法人日産財団 第4回リカジョ育成賞の選定について〈講評〉

選考委員長 長谷部 伸治

公益財団法人日産財団では、女子児童・生徒の理科への興味・関心を高める活動の中で、特に優れた成果を残した個人または団体を対象に、「リカジョ育成賞」を授与している。

本年度は、2020年5月25日から2021年1月17日までの公募期間に、21件の申請があり、その中から5月に開催した本財団選考委員会において、第4回リカジョ育成賞グランプリ候補3件を選定した。そして、2021年7月28日グランプリ候補3件の成果発表を受けて、1件をリカジョ育成賞グランプリに、2件を同準グランプリに選定した。また、優れた成果を収めたと認められる7件の応募を、奨励賞に選定した。

COVID-19の影響で、長期に渡り対外活動が制約されている。応募・受賞された皆様には、このような状況を克服するための様々な工夫をして活動を継続されるとともに、その工夫・成果を広く社会に発信していただくことを期待する。

【第4回日産財団リカジョ育成賞 グランプリ】

北九州市立大学 国際環境工学部：市内・近隣の女子中高生を対象に、学校への出張講義や実験体験、講演会等を通じて地域の理系女子の育成を図る取り組みであり、イベント回数や参加人数の多い点を含め、高く評価できる。ホームページやPR冊子も洗練されており、またYouTubeチャンネルやInstagramを開設して動画配信を行うなど、取り組みに対する意欲が感じられる。生徒の理系への興味の有無や、対面・オンラインのケース別の今後の活動計画も明確であり、継続した活動の更なる進化を期待する。

【第4回日産財団リカジョ育成賞 準グランプリ】

輝けミライの私！山陰ガールズプロジェクト：2高専と大学が共同して地域の理系女子を支援する取り組みであり、実験講座や女性研究者の講演会等、充実した内容である。特に、母校中学校で講演を行う取り組みや、リケジョ支援学生チー

ムを結成しての活動など、運営に携わった女子学生の成長も期待できる取り組みになっている点を評価する。JST採択プログラムとしての活動終了後も、効果の高い企画は是非継続して実施していただきたい。

【第4回日産財団リカジョ育成賞 準グランプリ】

学校法人ノートルダム清心学園 清心中学校清心女子高等学校：様々な地域を巻き込んだ研究発表交流会を企画・実施するという活動を、10年以上継続している点を高く評価する。「理系女子育成を図る取り組み」をマネジメントする「取り組み」であり、この取り組みにより女子生徒が自ら研究する機会やその成果を発表する機会が増え、リケジョの増加に大きく寄与していると推察する。今後も、これまでの培った人的ネットワークを生かし、より活発な活動の継続を期待する。